

夢を運ぶ上海站

北京が政治の中心であれば、上海は商業の中心である。それは日本で言うとひと昔前の東京と大阪の関係であるように思う。時代の変化と共に現在は東京一極集中型になり、大阪の地盤沈下は激しく、とても上海と同じだとは言えない。

ここ上海駅から中国内陸部を結ぶ鉄道は、夜も眠らずフル稼働している。中国の海岸線沿いと内陸部では経済格差が益々広がっており、ひと旗揚げようと上海に出稼ぎに来る人は今も後を絶たない。大きな夢と限りない不安を抱えて。こうした駅にはこれまで様々な人間模様と喜怒哀楽のドラマがあったに違いない。

上海の鉄道の表玄関となっている市中心部の北側にある上海駅は、正式には「上海火車站」で列車を火車という。また駅は站と書く。新幹線の導入、無人自動切符販売機の開始。ガラス張りの近代的な外見。便利な地下鉄とのジョイント。長距離バスターミナルの完成。万博開催に伴い駅そしてその周辺も大改造がなされたようだ。

島国・日本で生まれ育った私は、大陸という感覚が実感としてわからない。上海から行き着く隣国は北朝鮮、ロシア、モンゴル、ベトナム、インドをはじめ14カ国と陸続きで国境を隔てている。更にその先はヨーロッパ、アフリカ、北極圏まで広がる。したがって今後世界平和の要となるのは、間違いなく中国の動向にかかっているものと思われる。

撮影 2010年夏

